クリスマスの決戦

ウォリアー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
クリスマスの決戦

【Ｎコード】
Ｎ０１４７Ｚ

【作者名】
ウォリアー

【あらすじ】
クリスマス――――――その本来の意味は失われ、今やＤＱＮ達の繁殖期と成り果てている。これは、そんなクリスマスを撲滅するために戦う漢達の物語である。

1：クリスマス爆発しろ！！（前書き）

今年もこのシーズンがやってきた。

1：クリスマス爆発しろ！！

薄暗い部屋の中、何人もの男女が集まっている。部屋の明かりは蝋燭が数本。男たちはそれぞれの武器を持っている。女も同様だ。やがて、部屋の前の方に二人の男が現れる。会場にどよめきが起こる。

「みんな、今年もこの時期がやってきた」

集まった人々にどよめきが走る。

「クリスマスシーズン。　サンタクロースとの戦いの日が近づいてきた」

ゴクリ、と生唾を呑みこむ音が会場に鳴り響く。

「報告！！」

「はっ！！　北海道、九州支部は、すでに奴らの卑劣な攻撃により壊滅寸前です！！　生き残りは近畿支部が受け入れておりますが、すでに容量は限界近いです！！」

「生き残りは名老市に回せ。　武器、弾薬もそこに回してくれると嬉しい。　・・・・あぁ、わかっている。　名老市には、今、聖杯がある。　奴ら、サーヴァントとして真祖のサンタクロースを呼び出す気だ」

真祖のサンタクロース、その言葉を聞いてざわめきが大きくなる。

「そんなバケモノに勝てるのかよ・・・・・・」

「勝てる。　いや、むしろ勝たなくてはいけない」

なぜなら、と男は声を張り上げる。

「我々の最終目標はクリスマスと言う概念の撲滅、そして、奴らは間違いなく一年中をクリスマスにすることを望むだろう。　だが、だが、だ。　我々が聖杯を手にすれば全ては逆転する。　即ちクリスマス、サンタクロースをこの世界から抹消出来るのだ！！　それもサンタクロースを殺したというおまけつきで！！」

◆

同時刻、リア充とチートキャラと転生キャラ（笑）の町、名老市

「くそっ！！くそっ！！くそっ！！バカな！！何故当たらない！！」

薄暗い部屋にいた男とよく似た格好をした男達がマシンガンを乱射している。

「功を焦りすぎたな、若造」

サンタの格好をした男が二人、一人は腕に令呪がある――――がマシンガンを躱しながら話に応じる。

サンタは音も立てずに男の内の一人の首を掴み

「キリエ・エレイソン」

そのままへし折る。

「あ、あぁ、あああああああああああ！！！！！！！！！！！」

絶望にかられた表情で男はマシンガンを乱射する。マシンガンはサンタに命中するが、サンタはそれを無視して近づいてくる。

「汝の魂に神の救いを」

◆

演説を終えた男は大型バスに乗り込む。

「先遣部隊が全滅、俺たち以外のサーヴァントとマスターも全滅・・・・・か。　ま、あの男ならこれくらいやってのけそうだがな」

「では、御指示を」

「俺たちのやることは変わらん。　クリスマスを撲滅し、世界中の非リア充に安息を与える」

「では・・・・・・」

「サーヴァントはすでに召喚している。それもとっておきのをな」

「では・・・・・・！！」

「あぁ、必ずヤツを倒し、安息を手に入れる」

１：クリスマス爆発しろ！！（後書き）

ＢＧＭ：近所のＤＱＮのギシアン

2：サタンさん（前書き）

悪魔め・・・

2：サタンさん

「これは・・・・」
「ひどい、な」
首をコキャられた死体が二体、男と部下の前に転がっている。
「くそっ！！　サンタの野郎！！　よくも我が同志を！！」
「落ち着け、エイブラハム（仮名）密入国船が来ていない以上はな」
「しかし！！」
「それに、俺のサーヴァントの能力なら・・・・・」
男の手に何やら怪しい緑色の光が宿る。
「我が同志よ。　復活しろ。　クリスマスを殲滅するために」
サーヴァントの力が死体に流れ込む。死体の傷が見る見るうちに完治していく。
「これは・・・・」
「俺のサーヴァントの能力、無限の戦闘員（アンリミテッドザコワークス）だ。見ての通り能力値がオールE以下の死体を蘇らせることができる」
それにしても、と男は笑みを作る。
「やってくれるじゃないか。　サンタのヤツ。　なら、次はこちらが仕掛ける番だ」
「では・・・・・」
「あぁ！！　全軍に号令！！　この街においてサンタと言う存在を編んでいるモノ・・・・クリスマスを無邪気に信じている子供たちを排除するように伝えろ！！」

◆

黒い装束を身に纏う男たちがビラを撒いている。ビラを手にした子供たちは、親に何事かを尋ねる。
「ねー、ラブホって何？」

「クリスマス割引って書いてあるよ？」
「サンタさんの正体がパパって本当なの？」

◆

「ぐぬっ！！」
「どうされました！！」
「奴らめ・・・・・、わしの力を削ぐ戦法に出てきおった」
白髪の老人はそう言って己の体を見る。サンタクロースとは、もともと実態の無い存在だ。それを肉付けするために伝承が追加されていった。故に、クリスマスに対する信仰が少なくなれば、それはそのまま力の消失、ひいては存在そのものの消失に繋がりかねない。
「しかし、我々は既に四体のサーヴァントを退けています。　今更奴らがあがいたところで」
そこまで言って、サンタのマスターは気付く。
「まさか・・・・・、いや、そんなはずは・・・・」
「まぁよい、弱者のあがきに答えてやるのもまた一興よ」
その言葉と共に、サンタの体が分身を始める。
【世界同時存在】サンタクロースの宝具の一つだ。サンタクロースは世界中の子供たちに同日、クリスマスプレゼントを届ける事が出来る。これはその逸話を元にした宝具だ。自分と全く同じ能力を持つ分身を作り出すことが出来る。この分身は一体一体が完全に独立しているためにマスターに負担をかける事は無い。
「さぁ、行ってくるが良い！！クリスマスに仇成す存在には死あるのみ！！」

◆

【ＣＬＡＳＳ】ライダー
【マスター】？？？

【真名】サンタクロース
【性別】男
【身長・体重】２００ｃｍ・１００ｋｇ
【イメージカラー】赤と白
【属性】秩序・善
【ステータス】筋力Ａ→Ｂ＋　耐久Ａ＋→Ｂ　敏捷Ｂ→Ｃ　魔力Ａ→Ｃ　幸運ＥＸ→Ａ　宝具ＥＸ→Ｂ
【クラス別スキル】
対魔力：Ａ＋→Ｃ
Ａ＋以下の魔術は全てキャンセル。
事実上、魔術では〇〇に傷をつけられない。現在は工作により減少している。
騎乗：Ａ＋→Ｂ
騎乗の才能。獣であるのならば幻獣・神獣のものまで乗りこなせる。ただし、竜種は該当しない。現在は工作により減少している。
【固有スキル】
信仰存在ＥＸ
本来存在しない、または元はあまり強くない存在が人々からの信仰により姿と力を得た存在。人々からの信仰による存在。このサーヴァントの場合聖杯戦争では戦争が行われる土地のサンタクロースを信じる力によって能力値を決定する。場合によっては足を引っ張る、扱いの難しいスキルではあるが信仰が最大限に達した時、その存在は神にすら匹敵する物になる。　ちなみに現在は反クリスマス同盟により能力値を減少させる原因になっている。尚、このサーヴァントの場合はクリスマス当日にありとあらゆる制約を振り払い、能力値を完全に発揮する事が出来るようになる。
気配遮断Ａ

「暗殺者」クラス固有スキル。自身の気配を消す能力。完全に気配を断てばほぼ発見は不可能となるが、攻撃態勢に移るとランクが大きく下がる。というスキルだがサンタクロースは、家屋への侵入に於いてもプロフェッショナルで極度に限られた時間の中で的確にプレゼントを配達し、速やかに立ち去る手際。無音歩行術等の隠密行動技能を持っている。しかも、その洗練が凄まじいものであることは明白である。彼は数百年に渡り目撃されたことすらないという実話をもとに生まれたスキル。アサシンと違い攻撃の際にも気付かれない。

知名度ＥＸ

サンタクロースにおいて一番の特徴はその知名度である。世界中の誰しもが知っていて当然で信仰され続けている存在のサンタさんは知名度だけで本来はあり得ないほどの補正が掛りステータスを激増させている。彼に勝るのはかなり難しい。しかしながら、一部の者には憎まれているため、現在は一部スキルを減少させている。

信仰　Ａ＋＋＋→Ａ

世界中の人々から信仰され生まれる精神・肉体の絶対性。現在は工作により減少している。

神性Ａ＋＋→Ｂ→Ｄ

神霊適性を持つかどうか。ランクが高いほど、より物質的な神霊との混血とされる。

「粛清防御」と呼ばれる特殊な防御値をランク分だけ削減する効果がある。

本来は聖堂教会の最高神ともよばれる存在そのものの神霊クラスのサンタだが英霊として呼ばれたため現在に至る。現在は工作と土地柄（クリスマスを商業シーズンとしか見ていない日本）により減少している。

洗礼詠唱：Ａ
　キリスト教における“神の教え”を基盤とする魔術。
　その特性上、霊的・魔的なモノに対しては絶大な威力を持つ。

【宝具】
『聖夜の贈り物（ヴァイナハツ・ゲシェンク）』
ランク：Ａ　種別：対人宝具　レンジ：１～？　最大補促：６７億人
　サンタクロースの所有する意思を持つ袋にして、相棒。
　第一効果、子供達がサンタの存在を信じていれば、制限なしに（サンタ本人が）欲するものを取り出すことができる。
第二効果、対象の人物を鑑定し、　受け取るに相応しいと判断された物を投影（プレゼント）する。
投影に必要な魔力は対象のものを使用し、効果時間はその思いの強さに比例する。　また、自身の力を分け与える事も可能。
現在は使用に制限をかけられている。

『聖夜の架け橋（シュティレ・ナハト）』
ランク：ＥＸ　種別：対星宝具　レンジ：０～９９　最大捕捉：６７億人
　赤鼻のルドルフを筆頭とした九頭のトナカイが牽く空飛ぶソリ。
　ソリとトナカイ達の空間跳躍能力によって、レンジ内の目的地までの距離を一瞬で無にしてしまう。
　また、この宝具は世界中の子供たちの願いで編まれている為、
　それ以上の願いを持った物でなければ、走行を妨げることは出来ない。飛行速度は光にも匹敵し急な方向転換も可能。巻き込まれればそくこの世からの退場が決定すると言っても過言ではない。現在

は魔力供給が追い付かない為使用不可。

『聖夜の鐘（シングルベル）』

ランク：Ｂ　種別：対人宝具　レンジ：１　最大捕捉：６７億人

袋の中から金を取り出しそれを鳴らすと夏であろうが晴れであろうが雪が降る。それだけの宝具だが聖夜に近い状況になるためサンタの信仰があがり戦闘力が上がる。

『聖夜の教会（メリー・クリスマス）』

ランク：？　種別：？？？？？　レンジ：？？？？　最大捕捉：？？？？

武器ではなく一つの魔術、固有結界の名称である。

固有結界とは術者の心象世界を具現化し、

一時的にせよ現実を書き換える魔術の総称。

固有結界は大禁呪と言われる特別な魔術であり、

修得している者は極めて少ない。

彼の場合は教会で超巨大な教会に景色が入れ替わる・・・この世界ではサンタクロースは神霊へと変貌し最強となる。現在はマスターからの魔力供給が足りない為使用不可。

『世界同時存在（オール・オーバー・ザ・ワールド）』

サンタクロースの能力値を莫大な物にしており尚且つ現在まで他のサーヴァントを圧倒した宝具。ノーリスクで使用できる。元々はクリスマスイブ、クリスマスの間に世界中の子供たちへプレゼントを配った事から。自分の現在の能力値と全く同じ分身を無限に作り出す事ができる。

【Ｗｅａｐｏｎ】
無し

【解説】

ミラのニコラオス。帝政ローマのリュキア属州のミラで生まれ、列聖された聖人。
子供、無罪な罪人、航海、学問の守護聖人……
そして、クリスマスイブに良い子とへプレゼントを贈るサンタクロースである。
これは、聖ニコラオスが子供の守護聖人であること、
娘の身売りをしようとする家の煙突から、金貨を投げ入れ、
そのおかげで身売りを避けれたという逸話に由来するという。
白ヒゲを生やし赤い服を着た、恰幅のいい好々爺。
白い大きな袋にクリスマスプレゼントを入れて肩に担いで、
「Ｈｏ　Ｈｏ　Ｈｏ」（ホゥホゥホゥ）と特徴的な笑い声をあげる。
南半球のオーストラリアなどではクリスマスの時期が夏にあたる為、
サーフィンに興じる姿が知られている。
反クリスマス同盟が勝つためには、工作により能力値をどこまで下げられるかに係っている。

2：サタンさん（後書き）

一日一話、感想が有ればクオリティは上昇します。

３：１２月？あぁ、天皇陛下に誕生日か（前書き）

だよね

3：12月？あぁ、天皇陛下に誕生日か

「報告！！　盟主閣下！！　ビラ配りをしていた我が軍勢の人間が何者かに排除されています！！」

「うろたえるな！！ヤツが対策を打ってくることくらいわかっていただろう！！」

男――反クリスマス同盟盟主は報告にそう返す。

「ふむ・・・、ホームレスを雇っての営業妨害にもそろそろ限界が訪れてきたようだね」

「参謀閣下、それでは・・・・」

「あぁ、僕とバーサーカーが出ようと思う。現状、あのサーヴァントの分身体は宝具が使えないことが判明してるしね」

彼らは何もこれまでいやがらせしかしてこなかったわけでは無い。他のサーヴァントとサンタの戦いを徹底的にリサーチして対策を編み出していたのだ。

「あぁ・・・・・、妬ましい」

「は？」

「妬ましい、本当に妬ましいよ、妬ましい。子供たちの願いなんて、美しい存在理由があるのが妬ましい。彼女がいる男が妬ましい。あぁ、金持ちが妬ましい。頭の良いヤツが妬ましい。スポーツ出来るヤツが妬ましい。喧嘩が強いヤツが妬ましい。才能あふれるヤツが妬ましい。ぼっちじゃ無いヤツが妬ましい。妬ましい」

詠唱と同時に彼の近くにサーヴァントが現れる。

「さぁ、幸せなカップルを殺しに行くぞ」

◆

「gaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaa

ａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａ
ａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａａ！！！！！！！！！
！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！
！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

　バーサーカーは雄叫びを挙げながらラブホに突撃する。そして、淫らな行為に及んでいるカップルたちを粛清する。恐らくこれで彼の真名が解るだろう。

「いいぞぉ！！　バーサーカー！！　嫉妬の力でカップル共を皆殺しにしろ！！　そして、クリスマスに対して・・・・・」

　瞬間、バーサーカーは突如として回避行動をとる。

「クリスマスにトラウマを植え付けろ！！」

「させぬぞ！！」

　サンタクロース・・・・・ライダーのサーヴァントがカップルに襲い掛かるバーサーカーの攻撃を受け止める。

「来たか！！　諸悪の根源！！」

「クリスマスは全ての人間に幸福を与えるもの！！　貴様ら等が邪魔をして良い日では無い」

　サンタは袋から何かを取り出す。

「エクス・・・・・カリパー！！！！」

凄まじい光がラブホを包み込み、ビルが倒壊・・・・しなかった。

わかるように書こうサンタが使ったのはエクスカリバーではない。

エクスかりぱーだ。

「ａｓｆｄｇｈｆｊｕｌｂｉ；ｏｋ」ｐｅｒ；ｉｌｅｈｂｇｗｋ‥５ぽえ０９８うｈｂかｊｋに‥おえｒ９うｈｌｊんｋｍぉあぺｗ０９ｐ４ぃふ！！！！！！！！」

　バーサーカーは意味不明な叫び声をあげながら吹っ飛ばされる。が、空中で宙返りをして体勢を立て直す。そして、マスターは『バールのようなモノ』を投げ渡す。それを見て、サンタは動揺する。

「な・・・・、あれは・・・・！！」

「知っているようだな、諸悪の根源！！　そう！　これは単なるバ

ールのように見えるがその実態は歴史上の数多くの事件において使用されたれっきとした概念武装だ！！　喰らえば貴様もただではすまん！！」

◆

【ＣＬＡＳＳ】バーサーカー
【マスター】反クリスマス同盟《頭の悪い参謀》
【真名】しっと仮面
【性別】男
【身長・体重】１８０ｃｍ？・７０ｋｇ？
【イメージカラー】嫉妬の炎と血涙の赤
【属性】激混沌
【ステータス】筋力（対カップル限定で）ＥＸ→（それ以外）Ｂ
耐久Ａ→Ｂ　敏捷（対カップル限定で）ＥＸ→通常時ｃ　魔力ｃ
幸運Ｅ－　宝具（対リア充限定で）ＥＸ→（それ以外）Ｄ
【クラス別スキル】
（嫉妬心による）単独行動：ＥＸ
妬む、とにかく妬む、ひたすら妬む、そして勝手に暴走する

【固有スキル】

嫉妬心ＥＸ

彼専用の固有スキルだがとある一方方向にしか発揮されないためＥＸではあるが効果は余りない。

狂化（限定で）ＥＸ

バーサーカー固有のスキルではある物の上記同様一方方向にしか発揮されないため。

知名度？？？
　時期限定でごく一部の地域でしか現れた報告が無いため

【宝具】
『嫉妬の炎（カップルキラー）』
ランク？　種別：対人宝具　レンジ：∞　最大補足：二人～
嫉妬の神を己の肉体に降臨させ相手（カップル）をボコる、
　とにかくボコる。

『増殖（ジェラシーフィーバー）』
　ランク？　種別：対人宝具　レンジ：∞　最大補足：二人～
しっと仮面の発する嫉妬の波動を感じ取った彼の信者達が
　何処からともなく湧き出てくる。

【Ｗｅａｐｏｎ】
　己の肉体・・・か？

【解説】
皆様ご存知（知らない人はごめんなさい）しっと仮面
　さまざまな恋人達のイベントの場に現れては
　世間を騒がす困った人。

アンダーグラウンドでは彼を教祖とする巨大な宗教も

存在するとかしないとか・・・。

『バールのようなモノ』

発祥は日本のニュースから。元々犯罪に使われた凶器が不明だった際にとあるニュースキャスターが『バールのようなモノ』と発言したのがルーツ。その逸話からとある魔術師が作成した。自重しろ。能力は世界中のありとあらゆる武器の代用品とできる事。ふつうの相手には効果が薄いが倒すために特殊なアイテムが必要な相手、例えばＥＸＴＲＡのジャバウォックなどに対して絶大な効果を発揮する。ただし、武器そのものには何の変化も無いため攻撃方法は普通に殴る、しか出来ない。

３：１２月？あぁ、天皇陛下に誕生日か（後書き）

頭の良いバカ

4：変態共め！！

「ぬん！！」

「gooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooouuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuuaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaawwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwrrrrrrrrrrrrrrrryyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaa！！」

　バールのようなモでバーサーカーはサンタに殴りつける。サンタは全身に力を溜め、それを解放する。サンタの周囲に発生した力場がバーサーカーを吹き飛ばす。バーサーカーの宝具は常時発動型だ。そして、この状況。ステータスが下がったとはいえ相手は強力なサーヴァントである。しかも、一体、また一体と分身が集まってくる。

「ここは・・・、一旦退くか」

　参謀はバーサーカーに宝具の使用を命令する。瞬間、バーサーカーに力が集まる。

「見せてみろ！！　神の力を！！」

◆

後日、巨大な爆発がホテル街で確認された。結果としてこの街の

ラブホは壊滅的な被害を負う事になる。が、それは別の話。

◆

「・・・・・そうか、これでこの街の淫らな宿泊施設は全滅か。よくやった」

「だが、問題も起きた。　この街でサンタの存在概念が強化されてしまった」

「そこに関しては電脳班に任せておけ。　奴の弱点を追加している」

「了解した。ところで次の作戦は？」

◆

大量の瓦礫の下から、ある種神々しい光が放たれる。そして、光が爆発した瞬間、そこに傷一つ負ってないサンタクロースが現れる。

「やってくれるじゃないか。あの者達。今回は本気で行かなければ拙いかも知れないな、マスター」

「そのようですな」

「なら、奴らの工作に対策を打つべきか」

5：男は黙ってゲームしろ～狂気のフロムソフトウェアクリスマス公式企画～

あの画像は色んな意味で画期的でしたね。

5：男は黙ってゲームしろ～狂気のフロムソフトウェアクリスマス公式企画～

今回はサーヴァントの能力値について、ゲーム『アーマードコア』に例えて解説しよう。こういうのには賛否あるかも知れないがどちらにせよどこかで説明回をやる必要はあったしね。

さて、ライダーのクラスにいるサンタクロース。まぁ、実際に召喚してもそれほど強くはならないと筆者は判断しているのだが、この小説自体おふざけだし設定を考えた想像屋さんもおふざけだったろうし、そこは余り気にしないでくれ。

ハイスペック＋複数のチート宝具持ちの彼が何故決めきれないか、その理由はズバリ、ハイスペック故の燃費の悪さ、言ってしまえば魔力供給が足りなくなっているという事だ。例えて言うとハイスペック高負荷装備とハイスペック高負荷フレームに対し内装が致命的に貧弱、と言ったところかな？ま、サンタのマスターも魔術師の中では中堅レベルなのだが。

他のサーヴァントに対しては宝具で見敵必殺を貫くことが出来たわけだが、今戦っている相手はそれらのデータを持っている。つまり、手品のタネを見抜いているという事だ。ついでに言えば、彼らはサンタ狩りのプロフェッショナル、この程度なら見抜いて当然と言うわけだしね。

次に、工作によって能力値を減らされることもかなり痛い。このサーヴァントは能力値が高いのだが、そのルーツの大半が信仰により支えられているというのが痛い。つまり、英霊としての地力が無いに等しい、と言うわけだね。戦闘的なサンタクロースの逸話など、三流都市伝説くらいなものだろうしね。何が言いたいのかと言うと、

サンタの能力値はマイナス変動しやすい、ＡＣに例えるとそれまでの強装備がレギュ改変によって著しく弱体化する、と言ったところだろうか。

とは言えソレは、逆に能力を上げる事にも利用できる。イメージダウンにより能力が下がるならイメージアップで能力は強化される。最もマスターもサーヴァントもそんなことは気にしてないようだがね。ま、型月作品にとってステータスは飾りだし、それをもとにした、いや、そう言えるのか？まぁ、とにかくこの作品は聖杯戦争ベースだしな。とにかくこの作品でもそれは同様だから、ま、気にしない彼らの態度が正しいんだろうな。

それに、能力値を工作で減らす、と言う反クリスマス同盟の一見賢い戦い方についても実情は、それしか出来ない、と言うのが正しい。つまり、それほどに強力でどうしようもない敵であると言えるだろう。実際、こんなのと戦ったら瞬殺される自信がある。それは能力値が下がっても変わらない。これは筆者の持論なのだが能力値の高さと強さは比例しない。能力値がいくら高くても弱いヤツは弱いし無能なヤツは無能だ。その逆も然り。と言うか能力値の高さと強さが比例するなら第四次聖杯戦争はケイネスの圧勝だし。

話が逸れたがこのライダー、サンタクロースは間違いなく強い。能力値の高低に関係無く。しかも能力値も高いのだから、一番質の悪い相手だろう。

以上だ。私が誰か、だって？ふふ、それは二十日前後のお楽しみだ。

５：男は黙ってゲームしろ～狂気のフロムソフトウェアクリスマス公式企画～

ＡＣでサンタを襲撃したあれです。

6：貧弱、貧弱ぅ！！

「父ちゃんの嘘吐き！！」
子供は父親に罵声を浴びせる。
「サンタさんは何でもくれるって言ったじゃないか！！」
子供の罵声に父親はひたすら耐える。そこで、目が覚めた。

「・・・・・少し眠っていたようだな。　対空監視、どうなっている」
「はっ！！　今のところ問題ありません！！」
そうか、とだけ言って軽く目を閉じる。気配遮断スキルの弱点は存在そのものを消す事は出来ないという事だ。故に、気配感知もへったくれもない現代的なセンサーには極めて弱い。
「・・・・・そうか、アジトの中のセンサーも起動してない。　つまりは今、攻撃されてるのはアイツだけか。　いつもいつも、アイツには迷惑をかける」
「それにつきましては参謀殿から伝言を預かっております。　気にする必要は無いと」
「そうか、帰ったらアイツには特別給与をやらないとな」

◆

「これは・・・・・帰れそうに無いな」
参謀は呟く。その周りを囲むのは無数のサンタクロース。何故か全員が血塗られた鉈を持っている。
「覚悟するが良い、クリスマスに仇成すものよ。今なら特別セールで苦しまずに逝かせてやるぞ」
「っはは、まったく、ＣＶ若本の時点で勝てない事を悟るべきだったかな」

ま、敗けてやる気も無いが。参謀はそう呟いてサーヴァントを呼び出す。
「行こうか。　この街にリア充は必要ない。　見せてやる。究極のクリスマス攻略法を！！」

■クリスマスをなかったことにする

１２月２３日２３時頃（日本時間）　羽田発ロサンゼルス行きの飛行機に乗る

１２月２３日１６時頃（現地時間）　ロサンゼルス到着

１２月２３日２３時頃（現地時間）　ロサンゼルス発羽田行きの飛行機に乗る

１２月２５日４時頃（日本時間）　羽田到着

これで聖夜は回避できる！！

２３日の２３時に寝るから２６日になったら起こしてくれ
「ぐわあああああぁぁぁぁぁあああぁあああああああああああ！！！！！！！！！！！！！」
全身から血を噴出してサンタクロースの大群が消滅する。かろうじて生き残った者も苦しみにのた打ち回っている。そんな相手に情けをかけるバーサーカーではない。
「ったく、少しは自重しろバーサーカー」
魔力供給が追い付かなくなったのか、参謀は倒れる。

「ははっ、リア充共の悲鳴が聞こえる、良い夜だ」
「きっ貴様！！　クリスマスの意義が何故わからん！！」
「ＤＱＮの繁殖期に意味など無い！！」

6：貧弱、貧弱ぅ！！（後書き）

皆もレッツトライ！！

7：白くべたつく何か

クリスマスの消滅。それは、サンタクロースの存在概念に多大なダメージを与える。とは言え本来はここまで大きなダメージを与える事は出来ないはずだ。参謀は工作の成果を感じつつ不敵に笑う。そう、全てはこの瞬間の為に。

「あぁ、貴様が死ねば、少しは溜飲がさがるな・・・・！！」

クリスマスの消滅を願う者が一人でもいる限り、彼らは戦いをやめないだろう。

◆

・・・・だが、クリスマスの到来を望む子供が一人でもいる限り、彼もまた、決して倒れる事は無いだろう。サンタの体から、圧倒的な覇気が漏れる。そして、

「ぶるああああぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁあああああああああああああああああああああああああああああああああああああああぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁああああああああああああああああああああ！！！！」

サンタクロースは立ち上がる。子供たちに夢を届けるために。それを邪魔する者を消し飛ばすために。

「貴様ぁ、最早、生かしては、あ、かぁえさんぞぉおおおお！！」

サンタクロースの周りには、何やら白いオーラがテラテラとあふれ始める。そう、それは、まるで、白く濁っていて、妙にべたつく・・・・・。

「液・・・・・・・体・・・・・・・だと？」

「違うな。　正確には、白くべたつく何か、だ。　武器に雷属性を付加することが出来る」

「何・・・・・・・だと」

「エレクトリカルパレードインクリスマス！！その身で味わうが良い」

８：ダメだこりゃ（前書き）

注、これは俗に言う小説よりも２ｃｈのＳＳに近い物と思っといてください。

8：ダメだこりゃ

雷撃を放つサンタクロース。それをひたすらその身に受けるバーサーカー。そもそも、今回サンタクロースを抑える事が出来たのはクリスマス消滅の概念を武装化する魔術を使う事が出来たからだ。いくら、型月作品のステータスが飾り以上の意味を持つことが少ないとはいえサンタクロースの能力値は限りなく高い。神などと言う概念に縛られた存在、存在概念による制限さえなければ確実にあの『アルクェイド（星そのもの）』に匹敵するであろう能力値を持っている。

彼らがそんなバケモノに対抗できたのはひとえに完全な対策と情報戦により徹底的なアドバンテージ稼ぎを行っていたからだ。つまり、それらのアドバンテージが使えない現状、彼らは攻撃に耐える事しか出来ない。

「サンタさんがそんなバケモノみたいな声で良いのかい？」

「残念ながら、あ、マスターの方針なのでなぁ！！」

◆

「今回は、悪い子には徹底的にお仕置きをしたいと思う。　まぁ、当然だね」

？：バカ

「方針なら仕方ないな！！」
参謀は叫びながら武器を取り出す。バールのような物。彼が制作した礼装であり、同時にありとあらゆる相手に対し平等にダメージを与える事が可能な武器。
「だろう！！」
サンタクロースは袋から武器を取り出す。彼の能力は劣化している物の、それでも弱い物では無い。
「衛宮以外の投影が魔術師に効くわけが無いだろう！！」
だが、取り出した武器は一瞬で破壊される。当然だ。
そもそも、投影とは戦闘用の魔術では無い。むしろ、儀式用の魔術だ。儀式に必要なアイテムが揃わない場合にそのアイテムを簡単に再現するために使う、などが本来の使い方だ。しかも、実際には本物を用意した方が良い場合が多い。一般的なレベルの魔術師なら楽に破壊できる程度のものだ。
衛宮士郎、そして、英霊エミヤがそれを戦闘に使えるのは単にそれを極限まで特化させただけにすぎない。投影自体がそんなに便利な物では無い以上、それを主軸に据えた宝具なら、確かに一般人は怯むかも知れないが、専門家たる魔術師なら簡単に攻略することが可能だ。出された端から壊していけば良い。
「それに、確信したよ。　あんたは確かにサンタだ。　何かに汚染されてることを除けばだが」
そう、最初から不自然だったのだ。サンタクロースが戦えている事も、能力値が制限されている事も。
「大体、その宝具から自分が望んだものを取り出せる時点でおかしかったんだ。　サンタクロース、否、聖人と言うのは自分の利を顧みない。　サンタクロースの物語からしてもその宝具の能力はおかしい」

「だから・・・・・、勝たせてもらうぞ！！　令呪を持って命ずる、バーサーカー、こいつを超えろ！！」

１０：神降臨

「バーサーカー、二たび令呪を持って命じる！！　宝具を起動しろ！！」

令呪、サーヴァントに対する絶対の命令権。それの重ねがけ。ここで勝たなければ恐らくバーサーカーは脱落するしか無いだろう。だが、この相手にはそれをするだけの価値がある。

「まだ歯向かうか！！　小僧！！」

サンタクロース・・・・ライダー、いや、ライダーオルタは袋から宝剣を取り出す。エクスカリバー。このサーヴァントは自らの力を最大まで生かす事が出来る状況を作り上げた。今から、袋から出てくるのは投影などでは無い。純粋な、混じりけの無い、本物の宝具が出てくるだろう。だが、

轟音が響き渡る。サンタクロースの攻撃をバーサーカーが受け止める。バーサーカーが自らの肉体に降ろした神、嫉妬の神、そして、七大罪の象徴、全竜（レヴァイアサン）を。

「良いだろう神が絶対だと言うのなら！！」

バーサーカーが吠える。参謀は己の持つ全ての魔力をバーサーカーに注ぎ込む。

「それを上回る力で！！」

バーサーカーの周囲にどす黒いオーラの様な物が現れる。神を降ろした証。全ての妬みを超越した、“妬み”。

「叩き潰す！！」

バーサーカーは絶叫と共にサンタに踊りかかる。サンタはその攻撃を拳で受け止め、強引に逸らす。次の瞬間には、

「力負けしているだと！！」

本来の実力を発揮したサンタにとって、全てのステータスを更に

上昇させた彼にとって、それは信じがたい光景だった。
「なぁ、知っているか。　七つの大罪において、最も重い罪を」
バーサーカーはサンタに拳を叩きつける。
「それは、嫉妬だ」
二撃目が入る。
「総てを妬み、羨み、それ自体では何も成しえない嫉妬。　だが、その感情は反転させることが出来る」
三撃目、もはや細かい技量など必要無い。
「嫉妬は向上心に繋がる。　アイツを超えたい、何でアイツは俺より恵まれているんだ。　いつか見返してやる、いつか、打ち勝ってやる。　嫉妬は俺が知る限り人間しか持てない感情だ」
四撃目、全竜の攻撃は全てクリーンヒットする。それは、バーサーカーの肉体と言う枠に嵌っていても尚、強大な力を誇る。
「いや、違うな」
五撃目
「この感情は」
六撃目
「人間が持つ、最も崇高な感情だ！！」
七撃目、サンタクロースは吹き飛ばされる。
「終わりだ、サンタクロース。　歪んだ願いにより召喚され、歪んだ力により歪められた有り方。　敵ながら見るに忍びない」
最後の一撃を入れるべく、バーサーカーが溜めを作る。
「消してやれ！！　バーサーカー！！」
神降ろしの神髄、自らの肉体に宿った神の力を敵に向けて直接放つ一撃。これを受けてまだ、存在できるサーヴァントなどあり得ない。
瞬間、全てが黒く染まり・・・・・。

◆

サーヴァントが、消滅した。

メリークリスマス

本日はお集まりいただきまして、大変有難うございます。
本日は、クリスマスを執り行う予定でしたが、サンタクロースが消滅したため、残念ながら、中止とさせていただきます。

◆

「押さえろ！！　奴の突撃は・・・・！！」
「アヴェンジャーはどうした！！　アイツは！！」
「すでに突撃しています！！」

◆

クリスマス・・・、それは、金を集めるために企業が用意した罠。

◆

「閣下の演説が終了するまで持ちこたえるんだ！！」

◆

「さぁぁぁせぇぇぇるぅぅぅぅぅぅぅぅかぁぁぁぁぁぁぁああああああああああああああああああぁあぁぁぁぁああぁぁああああああああああああああああああああああぁぁぁあああああああああ！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

◆

「来たか・・・」

◆

空気が凍りつく。凍てつく大気を身に纏う男は、赤い服を着ていた。
「残念ながら、今年のクリスマスは終了した。他をあたるんだな」
盟主にライダーの一撃が叩き込まれる。盟主はそれを受け止める。
「なんてな」
ぐにゃりと盟主が歪む。そこにいたのは、
「ア・・・アヴェンジャー、まさか、貴様！！」
「そういう事さ！！」

◆

「久しぶりだな、親父」
「息子よ、また会ったな」
二人は拳を固める。
「もはや、言葉は不要か」
お互いに弾かれたように前に出る。単純な殴り合い、即ち力比べ。
魔術戦の様な小細工はお互いに使わない。
「いつの間に鍛えたんだ！！」
「お前もな！！」
一撃の重さはお互いほとんど変わらない、ただ、攻撃の手はお互いに緩めない。
「めぇぇぇえええええええええエエえええええええええええええりぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃいイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイ、クリスマス！！」
「うっさいわ！！」

お互い、顔面に攻撃を叩き込む。
ダブルノックアウト、お互いに立ち上がることも出来なくなった。

◆

「マスター同士がなぐり合う為にわざわざ示し合せたんだ。　なら、向かわないのが粋というものだろう」
「そのようだな」
「しかし、あんたも物好きだな。　あんなのについてくとは」
「私を呼んだのはあの男だ。しょうがないだろう」
アヴァンジャー、アンリは笑う。
「ま、お互いこれで終わりか」
「まったくだ。茶番に付き合わされる身にもなってほしいな」
二体のサーヴァントは笑いあう。

「「メリークリスマス」」

◆

こうして、今年の決戦は幕を閉じた。また、来年の戦いを確約して。

メリークリスマス（後書き）

設定をくださったとんぷーさん、想像屋さん、ありがとうございます！！

説明不足ではございますが今年の戦いは終了です。

・・・・・やはり、リアルタイム小説は難しいですね。

途中、リアルの都合で更新できなくなったりもしましたし。

それでは皆さん、良いお年を。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0147z/

クリスマスの決戦

2011年12月24日11時48分発行